

- 1 兄弟たちよ。わたしもまた、あなたがたの所に行ったとき、神のあかしを宣べ伝えるのに、すぐれた言葉や知恵を用いなかった。
- 2 なぜなら、わたしはイエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外のことは、あなたがたの間では何も知るまいと、決心したからである。
- 3 わたしがあなたがたの所に行った時には、弱くかつ恐れ、ひどく不安であった。
- 4 そして、わたしの言葉もわたしの宣教も、巧みな知恵の言葉によらないで、霊と力との証明によったのである。
- 5 それは、あなたがたの信仰が人の知恵によらないで、神の力によるものとなるためであった。

◎この手紙は…

パウロ

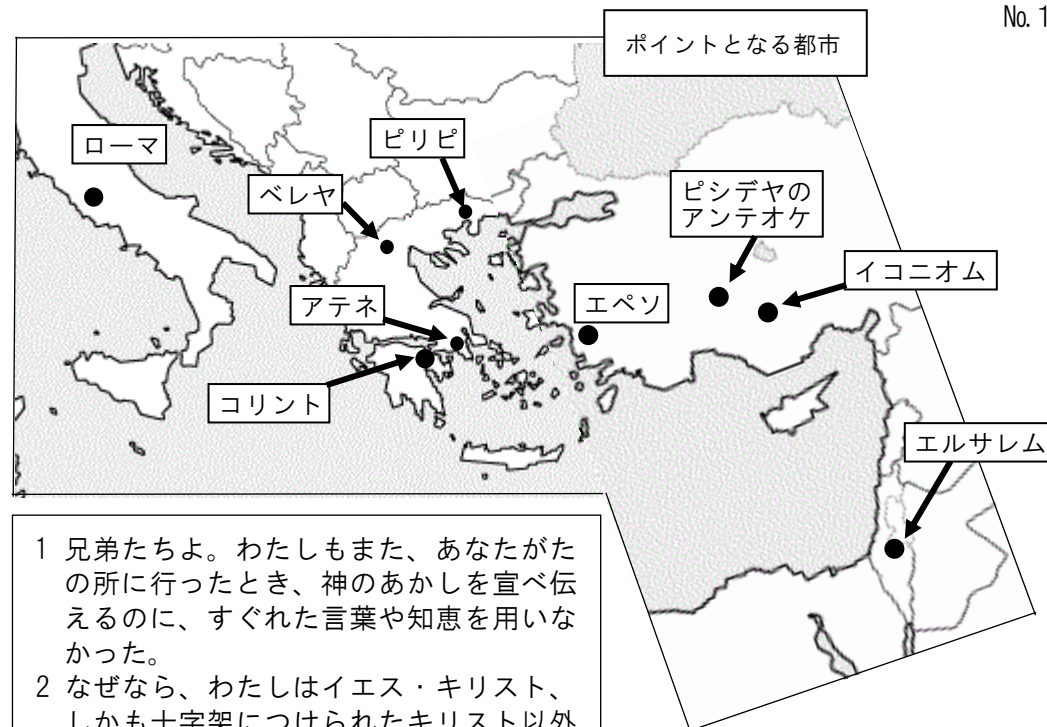
第3回伝道旅行の時に

3年間滞在したエペソの終わり頃

AD55年か56年に書かれた

◎パウロの生涯年表（新聖書注解新約2、P27より）

30年	イエスの十字架・復活・昇天
32年(34年)	パウロの回心
34年(36年)	第一回のエルサレム訪問
46年	飢きんの時の訪問
47年春～秋	第一回伝道旅行
49年早春	使徒会議
49年春か初夏	第二回伝道旅行開始
49年	ユダヤ人退去令
49年秋	アクラとプリスキラのコリント到着
50年初頭	パウロのコリント到着
51年頃	パウロのコリント出発
51年末	第二回伝道旅行の終わり
53年春～56年晩春	第三回伝道旅行
56年晩春	パウロのエルサレムでの逮捕
56年初夏～58年秋	カイザリア到着
59年春	ローマ到着
64年頃	パウロの殉教



- 1 兄弟たちよ。わたしもまた、あなたがたの所に行ったとき、神のあかしを宣べ伝えるのに、すぐれた言葉や知恵を用いなかった。
- 2 なぜなら、わたしはイエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外のことは、あなたがたの間では何も知るまいと、決心したからである。

◎パウロがコリントに伝道に向かった時の決意

- A. あなたがたの所に行ったとき…第2回伝道旅行でコリントに行った時（AD50年）コリントのことを思い出している。
- B. 神の証し＝神がイエス・キリストを通して現わされた救いの計画。
- C. すぐれた言葉や知恵を用いなかった  
パウロは知的な言葉、巧みな言葉で宣べ伝えることを放棄した。
- D. パウロは決めた！キリスト以外のことは何も知るまい！  
イエス・キリストとその十字架以外は何の知識も見せびらかすまい（現代訳）
- E. パウロがそう決心した理由が次節以降に記されている。

3 わたしがあなたがたの所に行った時には、弱くかつ恐れ、ひどく不安であった。

◎コリントに行く前のアテネでの伝道

- A. 新共同訳を参照  
そちらに行ったとき、わたしは衰弱していて、恐れに取りつかれ、ひどく不安でした。

## B. アテネでの体験（使徒17：22～32）

## ①理想的な説教をしたパウロ

22そこでパウロは、アレオバゴスの評議所のまん中に立って言った。「アテネの人たちよ、あなたがたは、あらゆる点において、すこぶる宗教心に富んでおられると、わたしは知っている。～（中略）～29 このように、われわれは神の子孫なのであるから、神たる者を、人間の技巧や空想で金や銀や石などに彫り付けたものと同じと、見なすべきではない。30 神は、このような無知の時代を、これまでは見過ごしにされていたが、今はどこにおる人でも、みな悔い改めなければならないことを命じておられる。31 神は、義をもってこの世界をさばくためその日を定め、お選びになったかたによってそれをなし遂げようとしている。すなわち、このかたを死人の中からよみがえらせ、その確証をすべての人に示されたのである」。32 死人のよみがえりのことを聞くと、ある者たちはあざ笑ひ、またある者たちは、「この事については、いずれまた聞くことにする」と言った。こうして、パウロは彼らの中から出て行った。

## ②パウロのショック

- 蓄えてきた様々な知識、知恵を余す所なくアテネで語ったであろうパウロ。中には信じた者もいたが、受け入れない者がほとんどだった。
- 特に「死人のよみがえり」に関しては見下され、馬鹿にされてしまった。

## C. これまでの伝道体験は成功体験だった

## ①第1回伝道旅行での体験 ～ ピシディアのアンテオケ ～

次の安息日には、ほとんど全市をあげて、神の言を聞きに集まってきた。  
（使徒13：44）

## ②第1回伝道旅行 ～ イコニオム ～

ふたりは、イコニオムでも同じようにユダヤ人の会堂にはいって語った結果、ユダヤ人やギリシヤ人が大ぜい信じた。（使徒14：1）

## ③第2回伝道旅行 ～ ピリピでの体験・その1「紫布の商人ルデア一家が救われた」～

14 ところが、テアテラ市の紫布の商人で、神を敬うルデアという婦人が聞いていた。主は彼女の心を開いて、パウロの語ることに耳を傾けさせた。15そして、この婦人もその家族も、共にバプテスマを受けたが、その時、彼女は「もし、わたしを主を信じる者とお思いでしたら、どうぞ、わたしの家にきて泊まって下さい」と懇望し、しいてわたしたちをつれて行った。（使徒16：14～15）

## ④第2回伝道旅行 ～ ピリピでの体験・その2「自害しかけた獄吏とその一家が救われた」～

31 ふたりが言った、「主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます」。32 それから、彼とその家族一同とに、神の言を語って聞かせ

た。33 彼は真夜中にもかかわらず、ふたりを引き取って、その打ち傷を洗ってやった。そして、その場で自分も家族も、ひとり残らずバプテスマを受け、  
（使徒16：31～33）

## ⑤第2回伝道旅行 ～ ベレヤの人々 ～

10 そこで、兄弟たちはただちに、パウロとシラスとを、夜の間にベレヤへ送り出した。ふたりはベレヤに到着すると、ユダヤ人の会堂に行った。11 ここにいるユダヤ人はテサロニケの者たちよりも素直であって、心から教を受け入れ、果してそのとおりかどうかを知ろうとして、日々聖書を調べていた。12 そういうわけで、彼らのうちの多くの者が信者になった。また、ギリシヤの貴婦人や男子で信じた者も、少なくなかった。（使徒17：10～12）

## D. ところが、「アテネ伝道」は思ったような成果を上げられなかった。

パウロは弱さを覚え、恐れを持ち、不安でいっぱい状態で、コリントへと向かって行った。

しかし！だからこそ、パウロに新たな宣教の世界が広げられていったと言える。

4 そして、わたしの言葉もわたしの宣教も、巧みな知恵の言葉によらないで、霊と力との証明によったのである。

5 それは、あなたがたの信仰が人の知恵によらないで、神の力によるものとなるためであった。

## A. 巧みな知恵の言葉によらず、霊と力との証明

①説得力のある知恵のことばによって行われたものではなく、御霊と御力の現れでした。（Iコリント2：4、新改訳改訂第3版）

②パウロの宣教はアテネでの体験を通して、さらに神に信頼する宣教スタイルに変えられた。

## B. この手紙を読むコリントの人々の信仰が神に根差すために

①人間の知恵に基づかない信仰＝神の力による信仰へとレベルアップしていく  
あなたがたの持つ信仰が、人間の知恵にささえられず、神の力にささえられるため  
（Iコリント2：5、新改訳改訂第3版）

②パウロがアテネでの伝道に挫折した事は、必要なことだった。

## 《神の恵み》

## A. パウロが得た神の恵み

苦しみにあったことは、わたしに良い事です。これによってわたしはあなたのおきてを学ぶことができました。（詩篇119：71） 「おきて」＝「神の言葉」

## B. 「試練、悩み、迷い」と「祝福、希望、喜び」が隣り合わせ

試練の時こそ、悩みの時こそ、迷いの時こそ、神との関係が深められ、豊かにされる時であることを覚えましょう。一足一足、一步一步、神と共に！